

平成29年度 学力向上指導改善プラン

三田市立ゆりのき台中学校長 竹村 年正

学校教育目標		温かさの実感、優しさの実感、そして夢と志を			
推進主体		研究推進委員会			
学力に関する前年度の課題・経年の課題					
学力の状況	全国学力・学習状況調査結果の状況(国語、算数・数学に関する質問紙調査の結果も含む)	国語	資料から適切な情報を得て、伝えたい事柄を相手に効果的に伝えたり、伝えたい事柄にふさわしい語句や文を適切に選択することに課題がある。		
		数学	データを収集して整理し、資料の傾向を読み取ることなど資料活用に課題がある。 図形の作図や図形と線分等を関連付けて読み取ること課題がある。		
学力の状況	定期テスト、単元テストなどによる状況(各教科)	おむね良好であるが、さらなる基礎・基本の定着や応用力の育成など生徒の個別課題への対応が必要。	朝学習の充実、工夫により基礎・基本のさらなる定着や授業の工夫による応用力のアップ。		
		積極的に授業に参加できる生徒が多いが、さらなる基礎・基本的な定着と、応用力の育成が課題。	思考力・判断力・表現力を高めるための授業の充実と工夫。		
学力向上に慣等の学習状況	全国学力・学習状況調査の質問紙の状況	基本的な生活習慣や学習習慣についてはおむね良好であるが、規範意識や自尊感情について課題がある。	道徳の時間を中心に、全ての教育活動において人権尊重の精神を育み、道徳心の醸成を図っていく。		
		学校評価などのアンケート調査による児童・生徒の状況	学習に対する生徒たちの意欲は高く、授業に対しても落ち着いた雰囲気の中で真剣に取り組んでいる。	主体的な学びを促進するための授業の工夫。	
校内研究・研修の状況	校内研究の状況	「ねらいとめあてを明確にした授業づくり」を研究テーマとし、教師それぞれの授業力の向上を目指す。	講師を招聘し、研究テーマに沿った研修会を実施し、教職員相互の参観授業月間を設け、授業力強化に向けた全教職員の連携・協力を進める。		
		校内研修の状況	全国学力・学習状況調査の結果分析について、職員全体で課題を共有し、全教科においてコミュニケーション力や表現力の向上を図る。	研究推進委員会による学力テストの結果分析や教職員研修会の充実。	
家庭・校種間連携	家庭・地域等の状況	家庭における主体的な学習への取り組みを促進する。	個々の生徒の学習課題を明確にし、家庭と連携して学力の向上を図る。		
		小・中における教科連携等の状況	学びの連続性を意識した授業内容の工夫が課題。	出前授業の教科数や時間数の拡大や連携強化。	
		4月	10～11月	2～3月	
		成果となる目標 (指標となる数値等)	具体的な行動目標 (成果目標達成のための具体的な手立て等)	中間評価 (今年度の全国学力・学習状況調査、研究の成果などを踏まえての設定目標等の見直し)	年度末評価 (今年度の成果と来年度に向けた課題等)
		学力向上に向けての重点的な目標	各教科の授業や総合的な学習の時間を有効活用し、ペア学習やグループ学習を積極的に推進し、コミュニケーション能力、表現力などを育成する。読書活動の充実による読解力の向上を図る。	正答率は全国平均を上回り成果が出ている。さらに継続する。家庭生活状況調査の結果、読書活動の充実には課題があるので図書ボランティアとの連携を強化し「推薦図書」等の紹介に努め読書活動の充実と読解力の向上に努める。	コミュニケーション能力、表現力などの力においては今以上の向上が望めるので、来年度に向けて授業改善に努め伝えたいことや行いたいことが正確に相手に伝わるよう取り組みを継続したい。読書活動の充実については、図書ボランティアの活動の活性化に加え、保護者より推薦図書を紹介してもらい生徒の興味関心を喚起するなどの工夫を凝らし、平日の平均読書時間30分以上6割達成を数値目標とする。
		深い学びにつなぐために、個人の考えをもとに、ペア、グループ、全体等で対話を計画的、意図的に仕組んでいき、コミュニケーション能力、表現力などを中心とした応用力を育成する。読書活動の充実による読解力の向上を図る。	全国学力・学習状況調査の平均正答率の向上。 生活アンケートによる平日の平均読書時間30分以上。	正答率は全国平均を上回り成果が出ている。さらに継続する。数学的な表現を用いて、判断理由を説明する活動等に課題があるので学習の理解を助けるICT機器等を活用した授業実践の機会を増やし、指導力の向上を図っていく。	課題解決に向けて、学習の理解を助けるICT機器等を活用した授業実践の機会を増やし、指導力の向上を図っていく。
		生徒が考えを表現する場において、思考の過程が見えるようにするなど、課題解決に向けての手立てや理解力、表現力、資料活用力の向上を図る。	ノート、ワークシート、電子機器等を有効に活用し、思考の過程が見えるようにするなど、資料活用力の向上を図る。	おむね成果が出ている。家庭学習プリントなどの正答率を向上と学力の2極化の改善	家庭学習プリントの提出率を向上させ、家庭学習の充実につなげる。朝学習の充実や「ひょうこがんばりタイム」の新規導入により、基礎基本の徹底を図り学力の2極化の改善につなげる。
		朝学習の充実、工夫により基礎・基本のさらなる定着や授業の工夫による応用力のアップ。	朝学習、単元テスト、定期テストなどの正答率の向上。	おむね成果が出ている。アクティブラーニング等の指導方法を積極的に取り入れ継続的に指導力の向上を図る。	自ら課題を発見し、解決に向けて主体的・対話的で深い学びを実現するために授業の中でグループ討議や発表の機会を増やし能力の向上を図る。そのための手立てとして新学習指導要領の導入に向けての職員研修の充実を図っていく。
		思考力・判断力・表現力を高めるための授業の充実と工夫。	発表、コミュニケーション能力などの向上。	「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」と思っていますや「人が困っているときは、進んでたすけます」等の質問紙回答率が向上した。今後は道徳科のスタートを見越し評価等の研究を進め規範意識や自尊感情の向上にさらに努める。	道徳の教科化に向けての教材開発を積極的に進め、道徳教育を通していじめを絶対に許さない学校づくりや、自尊感情の向上に取り組む。また、いじめ防止基本方針を改定し、「学校いじめ対応チーム」の機能を充実させ保護者・地域へも周知し、組織的な対応力を強化していく。
		問題解決能力、思考力、判断力などの向上を図るために主体的に学ぶ意欲を一層促進する。	主体的な学びを促進するための授業の工夫。	学校評価における「授業指導」に係る保護者アンケートの肯定的回答率の向上	学校評価アンケート等により生徒や保護者の「学習指導」に係る意識を的確に把握し、授業改善に努めていく。特に、授業のめあてと振り返りを重視し、「授業方法を工夫し、57.4%が肯定的回答であるが、37.9%があまりそう思わない」と回答されている。今後、公開授業による授業改善に努める。
		講師を招聘し、研究テーマに沿った研修会を実施し、教職員相互の参観授業月間を設け、授業力強化に向けた全教職員の連携・協力を進める。	授業交流や研究討議の充実。	「ねらいとめあてを明確にした授業づくり」を研究テーマとして、研修会を実施するとともに、授業公開強化月間を設け、公開率の向上を図り、指導力の向上を図っている。	来年度も研究テーマ「ねらいとめあてを明確にした授業づくり」を引き継ぎ、研究推進委員会が中心となり計画的・組織的な研修体制を本年度以上に構築していく。研究テーマを意識した授業に係る公開率を今年度よりも向上させる。
		全国学力・学習状況調査の結果分析について、職員全体で課題を共有し、全教科においてコミュニケーション力や表現力の向上を図る。	校内研修の内容の充実とその成果の授業への反映。	学校改革委員会と研修推進委員会が中心となり取り組んでいる。全国学力・学習状況調査の結果分析をはじめとする学力向上に向けた取り組みを一層充実させる。	学校改革委員会と研修推進委員会が課題分析を行い、校内で課題を共有している。来年度もコミュニケーション力や表現力の向上と「めあてとねらいを明確にした授業づくり」を課題とし各教科でも計画的に取り組む。
		家庭における主体的な学習への取り組みを促進する。	家庭における学習時間増や学習習慣の見直し。	定期的な家庭生活状況調査(年6回)を実施し、実態把握に努めるとともに教育相談や個人懇談等を通して課題解決に向けた家庭との連携強化を図る。	来年度も、家庭生活状況調査(年6回)を実施し、実態把握に努める。調査結果をもとに、「ひょうこがんばりタイム」等による学習課題克服を目指すとともに、教育相談や個人懇談等を通して課題解決に向けた家庭との連携強化を図る。
		学びの連続性を意識した授業内容の工夫が課題。	出前授業や連絡会の機会を増やし、学びの連続性を意識した授業の実施	小中相互の授業参観の機会を学期に1度はもち、授業の交流を図っている。保幼小中連携の機会として校区連絡会を定期的に実施している。	小中相互の授業参観の機会を学期に1度はもち、授業の交流を図る。小中連携の新たな取組として、生徒会・児童会の交流を活性化するとともに保幼小中連携にも積極的に取り組んでいく。